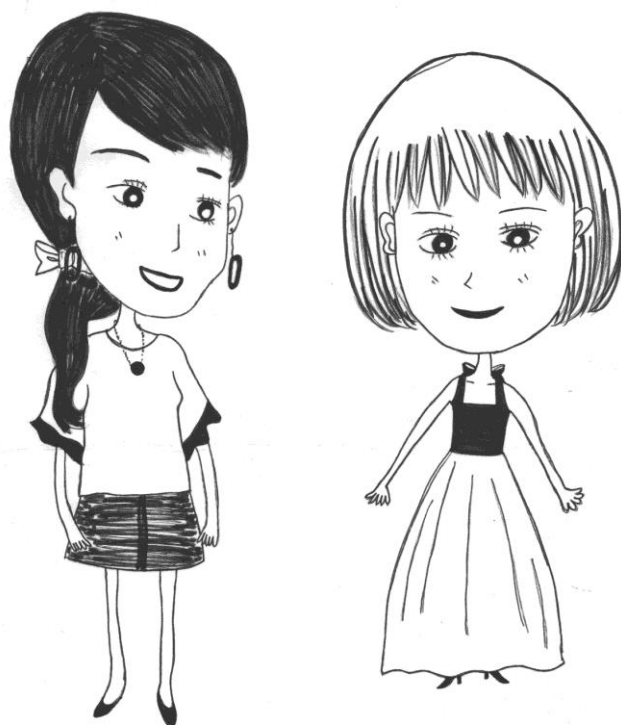


自信がなくても自分らしくできる

ピアノ講師1年生のための はんなり流☆ ピアノの教え方

第5章 レッスン4回目の内容



スカラー

■はじめに

この章では4回目のレッスンの指導内容に絞って作りました。

ピアノを教え始めて1カ月が経とうとしていますね。

この頃になると、子どもに何ができていて、何ができていないかが分かってくる頃なんです。

「イマイチへ音記号の読み方がわかっていなさそう」と感じるようであれば、もう一度へ音記号の読み方について一から説明した方がよいですし、「音の長さがよくわかっていなさそう」と感じるようであれば、初回のレッスンに立ち返って一から説明した方がよいです。

またピアノが得意な子もいれば、ゆっくりな子もいるので、この教材どおりに進まないときもあるかもしれません。ある日のレッスンは、ピアノを弾くだけで終わってしまうこともあるかもしれません。でも生徒には個人差があるので、先生の思うようにレッスンが進まなくても、それはそれで良いのです。

要するに、その子が理解してくれたらそれでよいので、焦らず丁寧に、そして子どもをよく観察しながら臨機応変にやっていってもらえたらと思います。

では、実践に移っていきましょう(^o^)/

■ 目次

■はじめに	2
■目次	3
■レッスン 4 回目のスケジュールはこちら.....	4
■ Part1 ピアノの弾き方指導実践その④	5
必要な教材	5
宿題チェック	6
実際の進め方	8
■ Part2 音符の読み方指導実践その④.....	11
必要な道具	11
実際の進め方	12
仕上げは「音符カード」でチェック！	14
■ Part3 リズムのたたき方指導実践その④.....	16
必要な道具	16
実際の進め方	17
■おわりに.....	20
■規約	21

■ レッスン 4 回目のスケジュールはこちら

前回の第 4 章「レッスン 3 回目の内容」はわかっていたでしょうか？

次はレッスン 4 回目の内容に入っていきますよ。

● 40 分レッスン

※40 分レッスンですが、レッスンノートへの記入や雑談をしたりする時間もあるので、レッスン時間は正味 35 分です。

※()の時間は、あるレッスンの一例です。ピアノの時間を少なくして、他の項目に時間を費やす場合もあります。

項目	時間
① ピアノを弾く 宿題チェックと左手「ドシラソファ」の練習	25 分 (20 分)
② 音符を読む へ音記号「ドシラソファ」を教える	5 分 (8 分)
③ リズムをたたく I リズム唱 II 拍数でたたくの徹底	5 分 (7 分)

4 回目のレッスンでは、**左手の 5 本指をすべて使っていきますよ！**

Part1 ピアノの弾き方指導実践その④

この章では、あくまで 4 回目のレッスン内容だけにフォーカスしてお伝えしていきますね。
まずは「ピアノを弾く 25 分」のレッスン内容です。

左手 5 本の指を使っていきますよ！

必要な教材

「バスティン プリマーA」



宿題チェック

前回のレッスンの宿題2曲を見ていきましょう。

p12「くも」

12

ら し まんなか
A B C
3 2 1

れんしゅうのしかた
1. おとがまをきいてながら ひきましょう。
2. リズムをかぞえながら ひきましょう。
3. うたいながら ひきましょう。

Clouds
くも

た か いー そ ら にー ひ こー き く も だー だー
See the clouds in the sky. Won-der how they fly so high!

ひだりて L.H. 3 3 3 2 2 2 1 2 3 2 1 2 3 3 2 1

WP235U

●子どもへの説明の仕方

・「この曲は左手で弾く曲だったね。この間の復習だね。①音の名前を言いながら弾く②リズムを言いながら弾く③歌いながら弾く、の順番で弾いていこう」と3段階に分けて弾いてもらいます。

・「左手の指きちんと動かせたね。よくできました！」と合格させます。

合格させる基準

左手が利き手じゃなければ、左の指は力が弱くて当然なので、大きな音が鳴らせなくても音の長さや指使いがあっていたら合格させます。

p13 「ハローウィーン」



●子どもへの説明の仕方

・「お家でちゃんと練習できたかな？ じゃあこの曲も、①音の名前を言いながら弾く②リズムを言いながら弾く③歌いながら弾く、の順番で弾いてみようね」と3段階に分けて弾いてもらいます。

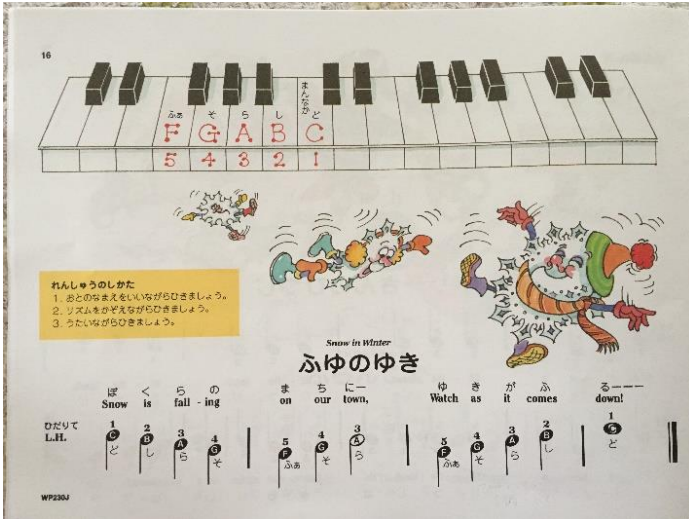
・「音の長さがきっちりと数えられたね！左手でがんばって弾けたね！」と合格させます。

これで宿題チェックは終わりです。宿題チェックの時間は、「ピアノを弾く25分」のうちの半分ぐらいを使い、残りの時間を新曲の説明に使います。

では宿題チェックが終わったので、p16へ進みます。

実際の進め方

p16「ふゆのゆき」では、へ音記号の「ドシラソファ」が出てきます。



「バスティン」のすごいところは、レッスン4回目にしてもう左手5本をすべて使って弾くところなんです。普通の本なら左手はせいぜい「ドシラ」止まりですが、子どもたちはドシラソファの文字だけで弾けるので、無理なく進めていけます。こうして早い段階から左手の練習を取り入れてやると、左手への苦手意識が少なくなります。これがバスティンならではの指導法です。「音を読むことよりも指を動かすことが優先」なんですね。

●子どもへの説明の仕方

- ・「まずは、音の名前を言いながら弾いてみようね。ドシラソ・・・」と弾いてもらいます。
- ・「4の指が少し弾きにくいけど、しっかり指先に力を入れてがんばろうね」と言います。
- ・「じゃあ次は、リズムを言いながら弾いてみようね。リズムの言い方覚えているかな？ ターターターターターターターアン・・・」とやってもらいます。
- ・「上手にできたね。最後に歌いながら弾いてみようね。ぼくらの まちに・・・」と、歌詞を歌いながら弾いてもらいます。

*** 指導のポイント ***

「ふゆのゆき」は左手をすべて使って弾きます。どの指から弾けばよいか迷っている子には、「まずは真ん中のドに親指を乗せてごらん。そこからとなりへとなりへ指を動かしていくんだよ」と言います。

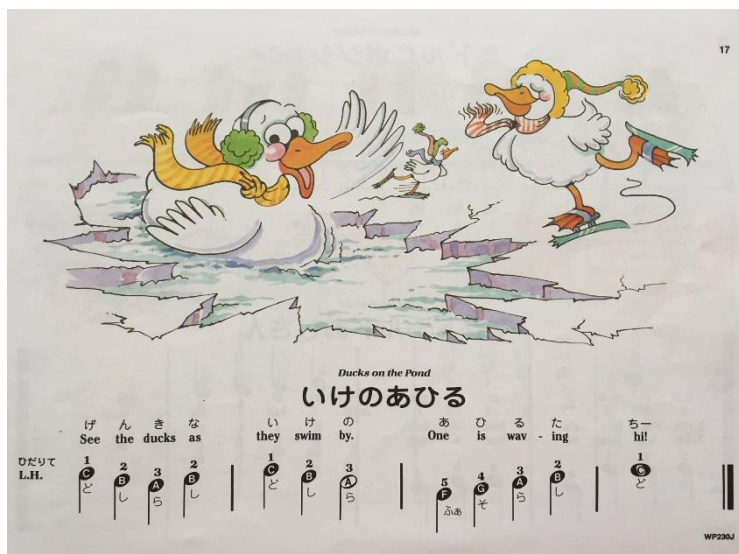
また「ファソラシド」が上手く弾けない子がいるかもしれません。特に左手の薬指は普段使わない指なので他の指よりも弱く、小さな音しか出ないと思います。

今は大きな音が出なくても合格させます。体の成長とともに鍵盤を押す力がついてくるので、無理に大きな音で弾かなくても大丈夫です。

※楽譜に書かれている「FGABC」のアルファベットの説明はまだしません（レッスンを開始して 2 カ月目以降が良いと思います。まずは、音符をきっちり覚えてもらうことが優先です）。

宿題の出し方

今回のレッスンで弾いたp16「ふゆのゆき」の復習と、新たにp17「いけのあひる」を宿題に出します。



子どもへは「p16 はとまらずにスラスラ弾けるようにお家で練習してこようね。3種類の弾き方(①音の名前②リズム③歌詞)でやってくるんだよ。新しくp17を宿題に出すね。これも3種類の弾き方でやってきてね。あと、どっちも**左手だけ**で弾いてきてね」と伝えます。

※子どもによっては「左右どっちの指で弾けばいいかわからなかった」と言ってくる子が少ないので、「左手で弾いてくるんだよ！」と強調して言ってあげてください。

.....

p17まで進めたら、あとは飛ばさずに順番に進めていきます(^-^)

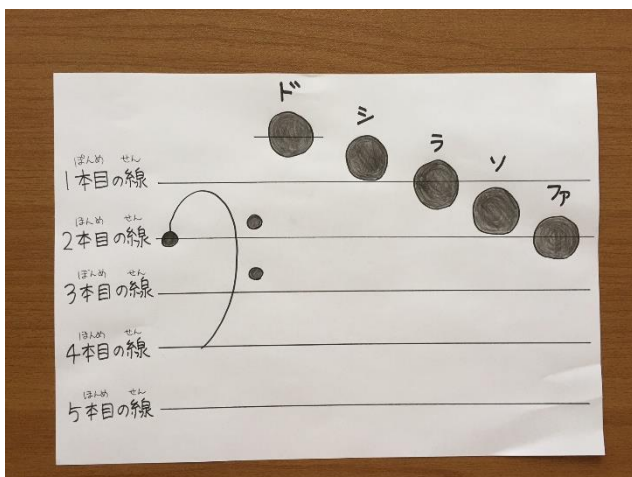
これで4回目のピアノの教え方は終わりです。

Part2 音符の読み方指導実践その④

レッスン4回目では、いよいよへ音記号「ドシラソファ」まで読んでいきますよ！

では、「音符を読む5分」のレッスン内容を解説していきます。

必要な道具



・へ音記号「ドシラソファ」を書いた紙

音符はできるだけ大きく書いてあげると
子どもは見やすいようです（'ω'）

※左のような事前に用意した紙でも良いし、
何も書いていない紙に子どもの目の前で
音符を書いてあげる方法でも良いと思います



・「ポケモン おんぷカード」

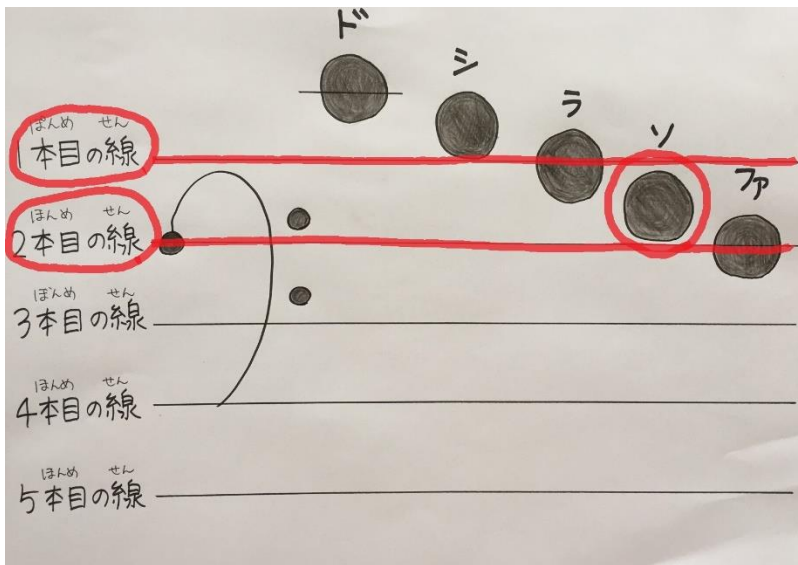
音符を教えるときに必須です

実際の進め方

「ソ」の説明

●子どもへの説明の仕方

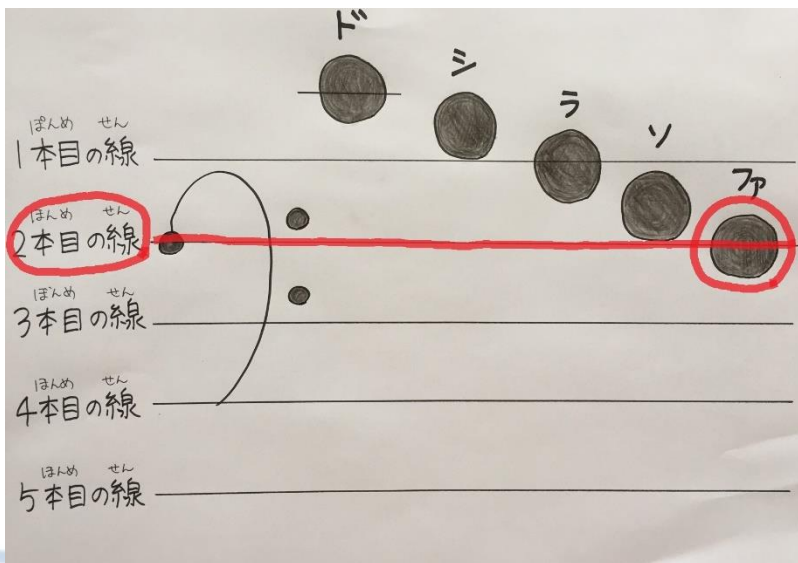
「これがソだよ。1本目と2本目の間にある音だね」と言います。



「ファ」の説明

●子どもへの説明の仕方

「ファの音は、2本目の線につきささっている音だね」と言います。



●子どもへの説明の仕方

* 指導のポイント *

音符の教え方は前回と同じですが、

線につきささっている音か、そうでない音なのか

をしつこいぐらい伝えます。

あとへ音記号を読むときは、**下にさがって**読んでいくことを理解してもらいましょう(^o^)

(「ト音記号は音上がる、へ音記号は音下がる」ですよ！)

「ソ」と「ファ」の説明ができたなら、次は、今までに覚えた音符をきちんと覚えているか音読みチェックをしていきます(^-^)

仕上げは「音符カード」でチェック！

ト音記号の音読みと同じで、子どもは新しく音を覚えると、どうしても前に覚えた音がおろそかになってしまいます。覚えるのも早いのですが、忘れるのも早いのです（;^ω^）

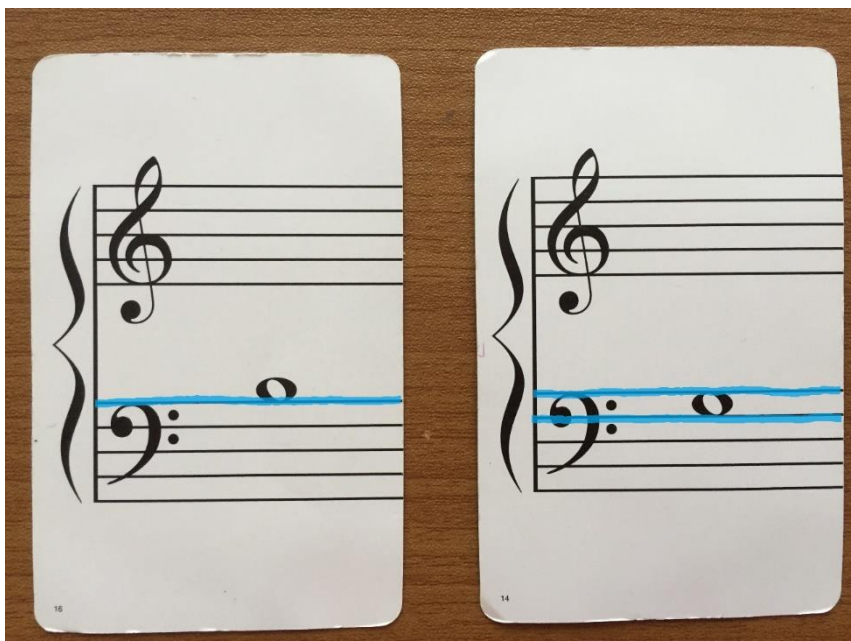
なので、ちゃんと音を読めているかを確認するために、「音符カード」を使います♪

ポイントは、1音1音バラバラに読ませることです。前後の音の流れで音符を読んだりする子がいるので（これが「ミ」だから次の音はたぶん「ファ」だろう」とかそういうこと）、そういう子は、1音だけ見せられたら何の音かわからないんです。

「シ」と「ソ」の違い

●子どもへの説明の仕方

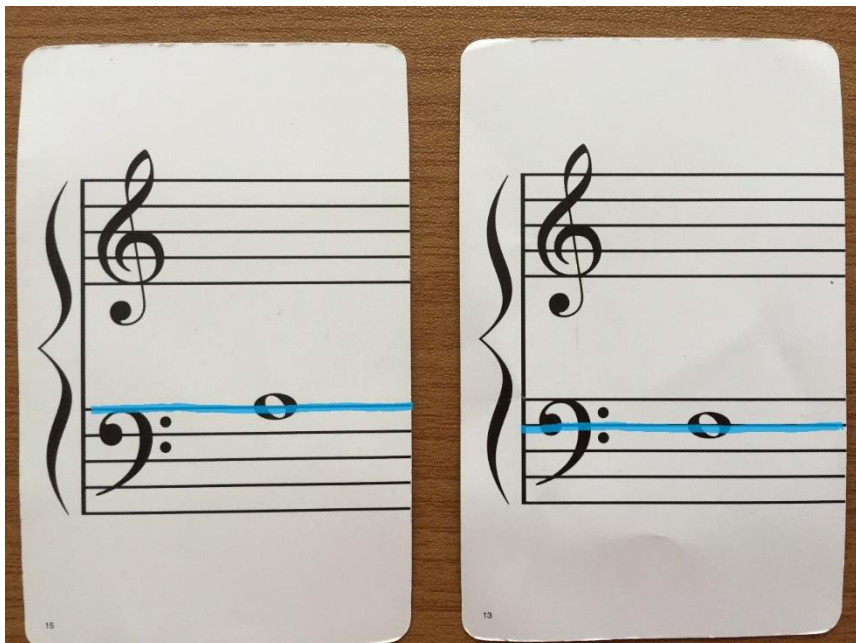
2つのカードを見せて、「**どっちがシの音かな？**」と言います。ソが何本目の線の間にあるかわかっていたら正解するはずですよ。



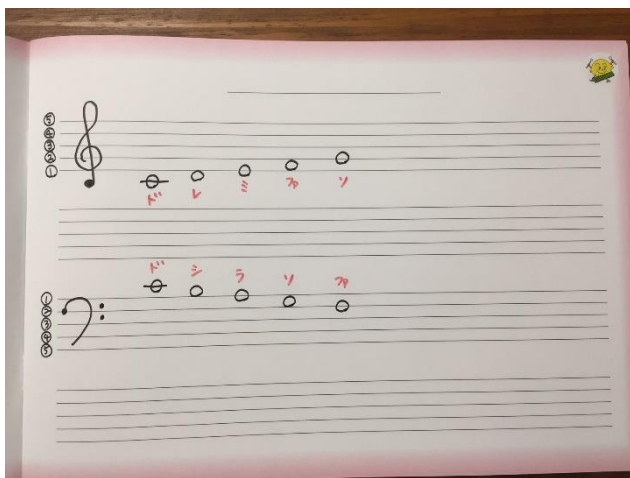
「ラ」と「ファ」の違い

●子どもへの説明の仕方

2つのカードを見せて、「どっちがファの音かな？何番目の線につきささっているかよく見てね」と言います。



この音符カード読みは、1カ月～2カ月ほどかけて、子どもがきっちり理解できるようになるまで、繰り返しやっていくことがポイントです。



このタイミングで、
今まで習った音符を音楽ノートに書いてあげましょう。
ちなみに音楽ノートは4段ぐらいが見やすいと思います。

これで4回目の音符の教え方は終わりです。

■ Part3 リズムのたたき方指導実践その④

レッスン4回目も前回と引き続き、リズム唱と拍数でリズムをたたくことを徹底していきましょう！

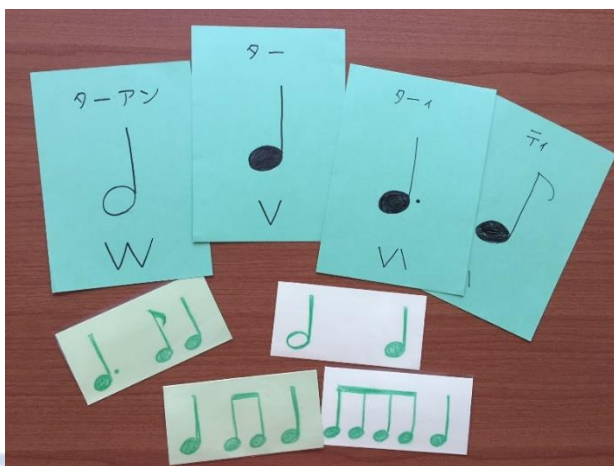
※すでに音符の名前、音の長さがわかっている前提でお話ししていきますね(*^*)

では、「リズムをたたく5分」のレッスン内容を解説していきます。

必要な道具



- ・「音符のつみき」
(リトミック研究会に所属していたときに購入。非売品。これに似た[音符のつみきはこちら](#)です。



- ・「リズムカード」
(色画用紙にペンで音符を書いたものです)

実際の進め方

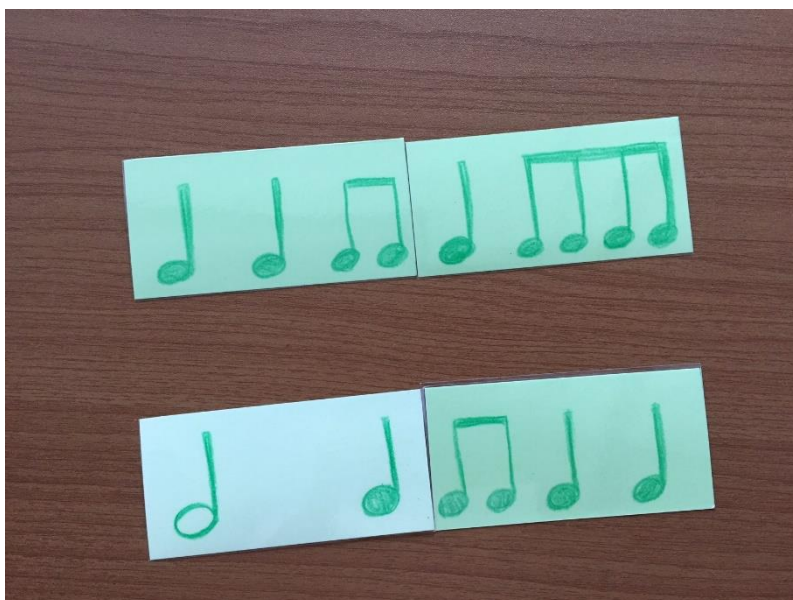
リズムカードを使う

「リズムカード」を使ってリズムをたたいてきます。

①リズム唱（ターアン ター ティティ）

②拍数（1、2、3 または1、2、3、4）

の2パターンでやっていきましょう。



●子どもへの説明の仕方

・「このカードのリズムをたたいてみようね。最初は、リズム唱でたたいてみよう。リズム唱覚えてるかな？ ター ター ティティ・・・」とやってたたかせます。

・「上手にたたけたね。正解。じゃあ次は拍数でやってみようか。このカードに書いてある音符は全部で何拍あるかな？ そう3拍だね。じゃあ1、2、3と言ってたたいてみようね。いち にい さん」とやらせます。

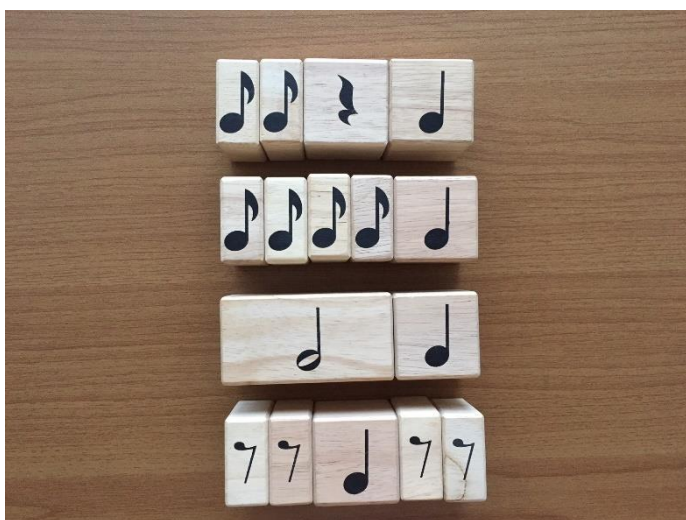
他にも何種類かのリズムカードで同じ要領でやっていきましょう(*^^*)

音符の積み木を使う

今度は子どもが自分で考えたリズムを音符の積み木で作らせ、それをたたいてもらいます（子どもは好きなようにリズムが作れるので楽しんでやります！）。リズムを作ってもらったときに、3拍子や4拍子と拍数を指定することがポイントです！

3拍子のリズム

休符を入れてやってみましょう。お休みが入るだけで結構やりごたえがありますよ！



●子どもへの説明の仕方

・「じゃあ今度はね。好きなリズムを作っていいよ。ただし、足して3拍になるリズムを作れるだけ作ってみて」と言います。

・「じゃあ上から順番にたたいていこうね。まずはリズム唱からいってみよう。ティティ うん ター ティティティティ ター・・・」と言います。

・「次は拍数でたたいてみよう。いち に さん いち に さん・・・」と言います。

4拍子のリズム



●子どもへの説明の仕方

・「じゃあ今度はね。好きなリズムを作っていいよ。ただし、足して4拍になるリズムを作れるだけ作ってみて」と言います。

・「じゃあ上から順番にたたいていこうね。まずはリズム唱からいってみよう。ター ティ ティ うん ター ターアン ティティ うん・・・」と言います。

・「次は拍数でたたいてみよう。いち に さん いち に さん・・・」と言います。

子どもたちはみんなリズム打ちが大好きなので、楽しくたたいてくれます。

これで4回目のリズムの教え方は以上です。

4回目のレッスンが終わりましたね。子どもには、「今日習ったことで一番大事なのは〇〇だからしっかり覚えてね」と言ったり、特に覚えてほしいことをレッスンの終わりにダメ押しするのがおすすめです(*^^*)

■おわりに

これで、第5章の「レッスン4回目の内容」は終わりです。

1カ月が経つと、子どもにとってもは教室に通うことに慣れてきて、先生と接することにも慣れてくるころではないでしょうか。

ここからは余談なのですが、

このころにはすでに子どもは自分の先生が怖いのか優しいのかを理解してきます。つまりは、何を言っても怒らない先生だと判断すれば子どもはどんどん調子に乗ってくる恐れがあるのです。

そうなると大変！先生の言うことを聞かなくなったり、反発したりしてレッスンが進んでいなくなる可能性が出てきます。そうならないために、「優しいけど間違っていることははっきり言う！」「ダメなことはダメと言う！」を忘れずにレッスンをしてくださいね。

私は基本、あまり怒れないタイプではあるのですが、レッスン中におしゃべりをしたり、先生が模範演奏をしているのに聞いてないときは、「レッスン中はおしゃべりはやめて、終わってから話そうね」と言ったり、「先生が弾いているときは、静かに聞きなさい」と注意することもあります。

注意をするときは声のトーンなどを変えて、叱るモードにしてください。そうやって一度注意をすると、「先生も怒ることがあるんや」と、調子に乗り出した子どもでもあまり羽目を外さなくなっていくですよ(^-^)

では、次は6章をやっていきましょう。

■規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://loopline.shop-pro.jp/?mode=sk>